

当期の概況

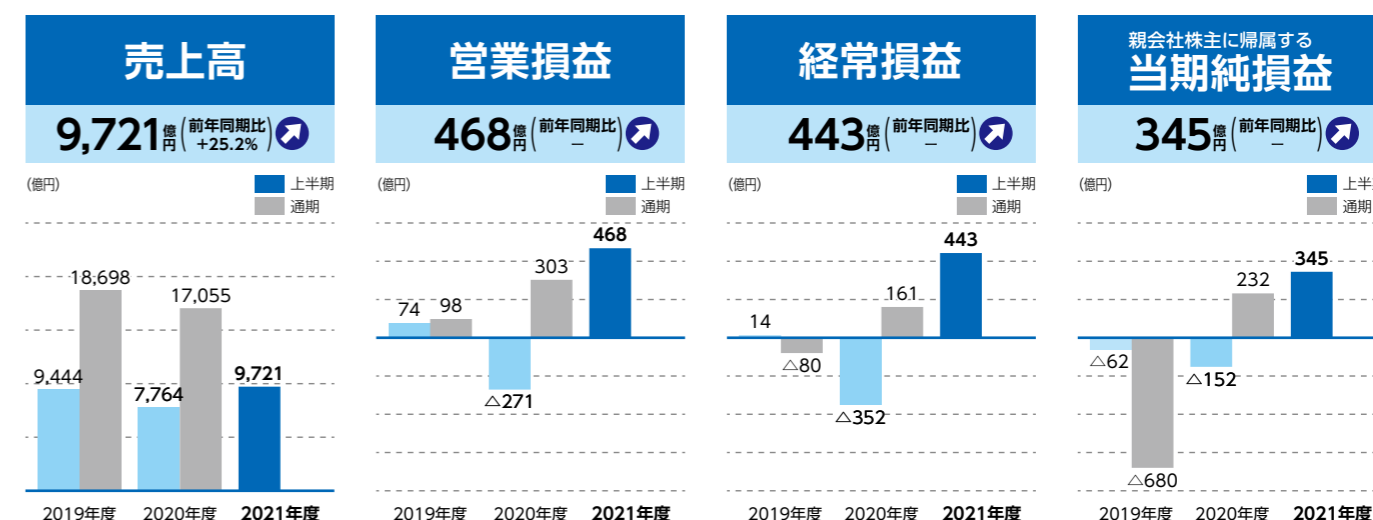
鋼材の販売数量は、自動車向けを中心とした需要の回復により、前年同期を上回りました。アルミ板の販売数量は、飲料用缶材向けの拡販に加え、自動車向け需要が回復したことなどから、前年同期を上回りました。

素形材では、自動車向け需要の回復に伴い、サスペンション、アルミ押出、銅板、鉄粉などの販売数量は前年同期を上回りました。

油圧ショベルの販売台数は、東南アジア、欧州を中心にインフラ投資の拡大を受けて需要が回復したことから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年同期を上回りました。

この結果、当上半期の売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年同期に比べ1,957億円増収の9,721億円となり、営業損益は前年同期比739億円改善の468億円の利益、経常損益は前年同期比795億円改善の443億円の利益、親会社株主に帰属する四半期純損益は前年同期比497億円改善の345億円の利益となりました。

業績ハイライト(連結)



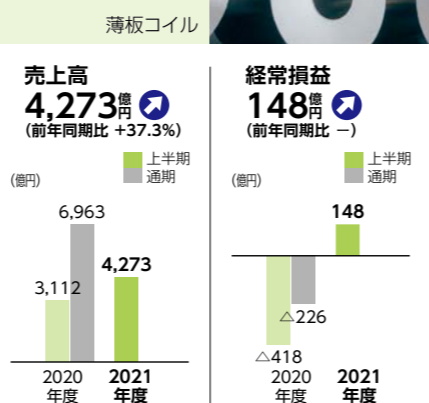
事業別売上高(2021年度上半期)



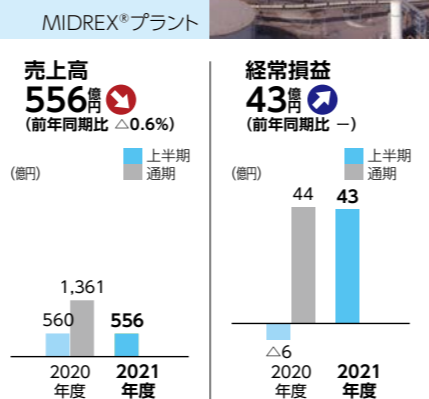
- 鉄鋼アルミ 43%
- 素形材 15%
- 溶接 4%
- 機械 8%
- エンジニアリング 6%
- 建設機械 19%
- 電力 4%
- その他 1%

(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額248億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額9,721億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

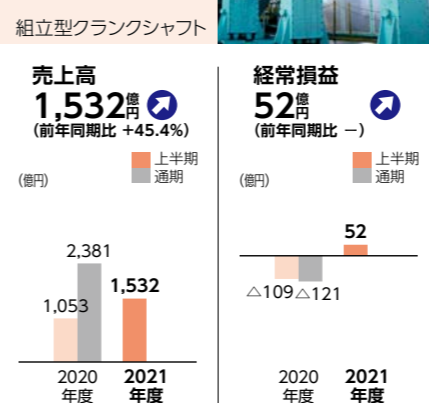
鉄鋼アルミ



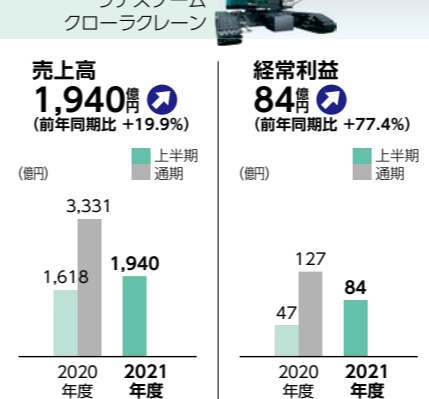
エンジニアリング



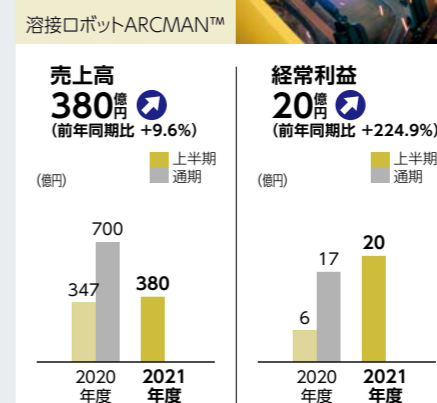
素形材



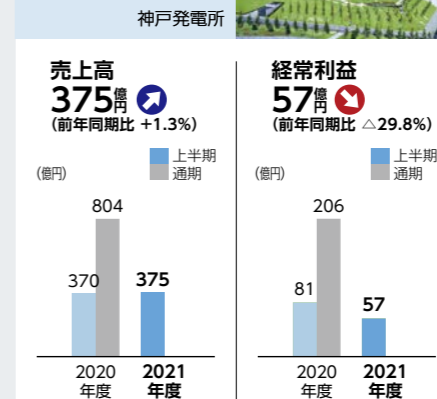
建設機械



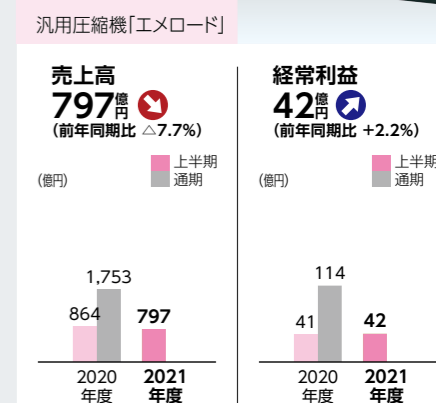
溶接



電力



機械



その他

